

小学四年生の娘が今年の春から人が変わったように明るく快活になつた。その理由は……。

娘は二歳で斜視になり、三歳から分厚いレンズのメガネをかけるようになつた。幼い子供がメガネをかけているのはめずらしいのであろう。どこに出かけても、人の視線が娘に注がれているのを感じずにはいられなかつた。特に、プールでは、無遠慮に娘の目を見ている子供や大人がたくさんいた。親として、こんなにつらいことはない。

その娘の目を、今年の二月、東京の病院で手術することができた。眼帯を取つて初めて登校した日、娘はみんなが「治つてよかつたね」と言つてくれたと喜んで帰つてきた。その日から娘は人が変わつたようにはりきつて生活するようになつたのである。

親の目からも娘が不憫だと思つていたが、親がこれほどまでにも自分の目のことを思い悩んでいたのかと、元気になつた娘の姿を見てあらためて思い知られた。娘は目の手術で自信をもつことができたが、これも今まで親の気持ちをくんで温かく娘を見守り指導くださつた先生方のおかげだと心から感謝している。

私は教師として、時々自分に問い合わせてみると、生徒の表面的な言動だけにとらわれて生徒を見てはいな

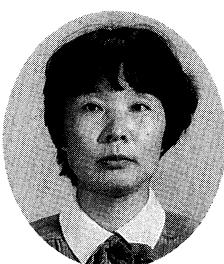
いか。また、自分を表現できずにじつと耐えている生徒を見過ごしてはいないか。さらに、生徒の親の気持ちや願いを忘れてはいなかつた。人の生徒が、中体連の大会や校内球技大会の活躍をきっかけとして驚くほど意欲的な生活をするようになつたり、授業中ほめられたことで学習に積極的に取り組むようになつたという話はよく耳にする。私は、生徒たちが自分を変えることができるような機会をひとつでも多く作つてやりたいと思う。

教育課程の改定など、今日日本の教育は大きな変化を求められている。しかし、いつの時代でも教師にとって大切なことは、生徒のありのままの姿を見取り、よりよい成長を願う温かい心ではなかろうか。

(郡山市立郡山第六中学校)

いつか通る道

水野 明美



「どこに置いたのかしらねえー。」

我が家のゴッド・マザーが、探し物です。数日前から、そうつと探していたのを私は知つていました。気づかないふりをしているのも親孝行です。

でも、部屋中がきれいになつてしまつても、一人になると探していくます。で、とうとう、「お母さん、何を探しているの?」

「どうしたの? お母さん。」「ん?」
においのもとである台所にとんで行つた私に、母は、「ちよつと焦げただけよ。」

高齢化社会といわれるまつたが中には、つらつと、元気よく生きていくにはどうしたらよいのか。

いつかは、私も通る道。元気に年齢を重ねていく両親を正視して、『どう生きるか』ということを教えてもらおう。そして、

『私の生き甲斐は、何か。』
一寸立ち止まつて、見直しをして、仕事を失つた時も、高齢になつても変わらない生き甲斐を求めたい。
(いわき市立小名浜西小学校教諭)

てしまつたのです。

最近、我が家の大鍋は、次から次へと新品になつてきます。

変わらないのは、年齢のせいと思われたくない母の強気の姿勢と達者な口です。

「遺伝するのかなー。」

私の敬愛している先輩のお母さんが、痴呆症と呼ばれる病気になつてしまつました。彼女と会うたびに、電話をするたびに様子を聞いて、悲しい症状に涙してしまいます。

そちこちで「痴呆症」の言葉を耳にするようになつて、「極楽とんぼ」と言わっている私も、新聞記事を読んだりテレビを見たりと、少々真剣になつてきました。